

北の都会 第852回月例会 卓話 (その冒頭スライド)

白山開山1300年祭の報告と、

神仏習合の面影を今に残す

五箇山白山宮 33年御開帳

白山御開帳



長岡 正利
(547金沢大 理 地学卒)

(五箇山白山宮「33年御開帳・式年大祭」の朝:長岡,2019.5.11/各聚落から慶祝の人達が参集)

2024(令和6年)年3月9日
東京都港区「銀座ライオン」新橋店にて

今回の卓話では、まず、白山についての全般・概説 続けて、白山開山1300年(下は日本山岳文化学会2018年での演旨)を

各地での白山開山 1300 年祭礼(昨年)と関連の催し

長岡正利

演者は本学会 2016 年大会で、一向一揆(天正 2(1574)年)や明治の廃仏毀釈を経て現代に遺った白山信仰の諸仏(うち重文が 2 点)などを紹介した。白山は、伝承に拠れば、養老元(717)年に越前の修験僧・泰澄が登頂・開山したとされ、昨年がその 1300 年目にあたることから、関係の各地では開山 1300 年祭が華やかに催された。

その創祀史実については下記文献に委ねるとして、ここでは、白山の三馬場(越前の白山平泉寺、加賀の白山比咩神社、美濃の長瀧白山神社)などでの白山開山 1300 年祭を紹介するとともに、神仏習合の面影を伝える富山県南砺市の五箇山上梨白山宮の祭礼を写真紹介する。その御本尊は十一面観音(神社ではあるが)で、33 年毎の御開帳が来春にあたる。



平泉寺白山神社の拝殿両翼に拡がる
一向一揆で焼亡の三十三間拝殿礎石列



開山1300年祭で開扉の拝殿内部
中央の繪馬は室町期とされている



寄進年が読み取れる繪馬の一つ、
寛永15(1638)6月18日 越前藩主松平家の



開山1300年祭で開扉の本社奥殿と、



奥にのぞく白山女神像御前立ちお顔



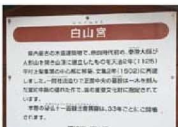
越前藩主が寛政7(1795)年再建の本社
奥殿の「白山妙理大権現」額と昇り龍



夜の訪れと共に始まる五箇山白山宮の秋祭り



当日昼の奉納踊り



本尊が33年毎に御開帳(次は来年5月11・12日)との標札と、重文説明にもその旨が

- 【文献】若林喜三郎編『白峰村史、上・下巻』。白峰村役場(1962・1959)
 北國新聞白山総合学術調査団編『白山』。北國新聞社(1962)
 白山本宮神社史編纂委員会編『白山比咩神社史—古代・中世編』。北國新聞社(2016)
 平泉隆房「越前馬場の信仰」。『悠久』No.148 特集「白山信仰」鶴岡八幡宮(2017)
 平泉隆房「泰澄大師の出自と『泰澄和尚傳記』」。『藝林』Vol.66-1(2017)
 勝山市編『白山平泉寺—よみがえる宗教都市』。吉川弘文館(2017)

今回の卓話、更に続けて、神仏習合を今に残す五箇山白山宮 33年御開帳・式年大祭の報告(下は日本山岳文化学会2019年での演旨)

神仏習合の面影を今に残す五箇山白山宮「33年御開帳・式年大祭」の報告

長岡正利

演者は本学会 2016 年大会で、天正年間の一向一揆や明治の廃仏毀釈を経て現代に遺った白山信仰の諸仏(うち重文が2点)などを紹介した。また、昨 2018 年の本学会では、伝承に拠る白山開山(養老元年、越前の修験僧・泰澄)から 1300 年目(2017 年)に、福井・石川・岐阜県などの関係の各地で華やかに催された白山開山 1300 年祭のもようを紹介した。

古来の白山信仰(白山修験)は、天台密教系の、神仏習合のかたち(十一面観音菩薩を本地仏とし、その垂迹神が白山(妙理)大権現)であった。しかし、全国におけると同様に、慶応4(1868)年3月の神仏判然令(分離令)によって、神社と寺院の分離独立とその僧侶の還俗や、仏像を御神体とすること等も禁じられた。だが、一方では、五箇山の白山宮(富山県南砺市上梨)では、神社ではあるが、その「本尊」に「秘仏・十一面観音菩薩」があって、近年は33年ごとに開帳がおこなわれてきた。今年5月のそのもようを、多くの写真で紹介する。

この白山宮は、伝承に拠れば、白山開山の泰澄が人形山に白山^{しらやま}菊理媛命を勧請・建立したものとわれ、後に現在の上梨聚落に移設して、文亀2(1502)年に再建されたもの(棟札の記述による)で、国指定の重要文化財である。



白山宮の鳥居前には御開帳標札と、重文説明にもその旨が。



御開帳の早朝に、拝殿と本殿檜堂の板戸を開放。右は、本殿正面上の、鎌倉初期の様式の蛙股。



御開帳が始まって、



五箇山各地から到着の獅子舞が、次々に奉納される。



拝殿では子供達によるこきりこ舞を奉納。



地域の人達が、正装で、次々に御開帳を拝観。右仮設で宝物展示。

開帳については、養老元(717)年の泰澄による創祀と伝わる平泉寺白山神社でも33年ごとに行われてきており、次回は2025年である。

一方では、若き日の泰澄が遙かに白山を望んで登峰・開山を志したと伝わる越知山大谷寺(福井県越前町大谷寺)での開帳は不定期(近年では1940・55・66・72・87・2003年)で、この11月2・3・4日に秘仏多数の開扉が予定されている。

【文献】平泉澄編『泰澄和尚伝記』。白山神社蔵版(1953)：『藝林』Vol.66-2(2018)に再録版あり
越中白山宮奉賛会『白山宮修理工事報告書』。同会(1954)

越中五箇山平村史編集委員会『越中五箇山平村史』上・下巻。平村(1985・1983)

越中五箇山筑子唄保存会編『こきりこーその由来と歴史ほか』。平村(2001)

平泉隆房「白山信仰をめぐる諸問題」。『藝林』Vol.66-1(2017)